

令和6年度ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業
(国際情勢に応じた海外アスリート等支援事業)
委託事業成果報告書

団体名 公益財団法人日本オリンピック委員会

代表者名 山下 泰裕

担当者連絡先

連絡担当窓口 (主)	氏名(ふりがな)	石川 宣治(いしかわ せんじ)
	所属部署・役職名	国際部部長
	電話番号	03-6910-5956
	メールアドレス	s-ishikawa@joc.or.jp
連絡担当窓口 (副)	氏名(ふりがな)	永島 眞由美(ながしま まゆみ)
	所属部署・役職名	国際部副部長
	電話番号	03-6910-5956
	メールアドレス	m-nagashima@joc.or.jp

本報告書は、スポーツ庁委託事業として、公益財団法人日本オリンピック委員会が実施した令和6年度「ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業（国際情勢に応じた海外アスリート等支援事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

1. 事業の実績

(1) 事業の実施期間

令和6年4月26日～令和7年3月31日

実施時期	事業の実績
4月	基準要項・各NF提出様式の検討
5月	基準要項・各NF提出様式の作成 NF向け説明会開催方法の検討と準備
6月	スポーツ庁と打合せ NF向け説明会の準備、開催 ※説明会概要は、別紙1を参照。
7月	応募NFから実施計画を回収 応募NFへの配布額決定、NF宛対象事業決定通知書の送付
8月	対象事業の執行管理（実施報告書類の回収、精査）
9月	事業中止NFの交付決定取消し NFへの事業費支払い
10月	対象事業の執行管理（事業の実施確認、広報活動実施依頼、視察）
11月	追加交付の決定 対象事業の執行管理（事業の実施確認、広報活動実施依頼、実施報告書類の回収）
12月	対象事業の執行管理（実施報告書類の回収、精査）
1月	対象事業の執行管理（事業の実施確認、広報活動実施依頼、実施報告書類の回収・提出依頼） NFへの事業費支払い
2月	対象事業の執行管理（実施報告書類の回収、提出依頼） 事業中止届出書の受理
3月	対象事業の執行管理（実施報告書類の回収、精査） NFへの事業費支払い 事業完了報告書の作成、提出

【事業成果】

1. 本事業は、ウクライナを始め紛争等により自国で十分な練習環境が確保できない海外アスリートによる日本及びアジア地域で競技大会への出場等を目的として日本国内で行う合宿やトレーニング等の支援に取り組む団体に対して、その費用を支援するものであり、下表の通り、4NF4事業の支援を行った。

種目	支援対象国	支援対象国 参加者数	滞在日程	大会 参加日程	大会名	大会 開催場所
(1) サッカー	ウクライナ	—	2024/6/17～ 2024/6/24	2024/6/19～ 2024/6/23	U-16 インターナ ショナルドリー ムカップ 2024 JAPAN	福島県 (日本)
(2) 柔道	ウクライナ	29	2024/10/14～ 2024/11/1	大会参加 なし		東京都 (日本)
(3) フェンシング (男子フルーレ)	ウクライナ	8	2024/11/30～ 2024/12/9	2023/12/6～ 2023/12/8	2024 高円宮杯 フェンシング ワールドカップ	群馬県 (日本)
(4) 体操	ウクライナ	32	2025/1/13～ 2025/2/15	2024/2/28～ 2024/3/2	MISS VALENTINE 2025	TARTU (エストニア) *本事業後

(1) サッカー

U-16 ウクライナ代表は、「U-16 インターナショナルドリームカップ 2024 JAPAN」(福島県/Jヴィレッジスタジアム)に参加し、U-16 日本代表・セネガル代表・ベネズエラ代表と試合を行った。自国の練習環境が厳しい中、日本の整った施設で練習・試合を行えたことは、秋から始まるヨーロッパでのU-17選手権大会前の強化という意味でも大きな助けになるとして、ウクライナ選手団からは非常に感謝された。

サッカーNFでは、国際貢献の一環として、次年度も様々な国から選手招へいを検討中である。
詳細は、別紙2を参照。

(2) 柔道

柔道NFのウクライナ招へい事業について、10月30日、講道館にて行われている合宿の視察を行った。視察では、ウクライナの選手団が日本人指導者による指導を真摯に受け、練習に熱心に取り組む姿が非常に印象的であった。

また、本合宿の取材は13社にのぼり、日本国内でのウクライナ情勢への関心の高さが示された。
詳細は、別紙3を参照。

(3) フェンシング

フェンシングNFが招へいしたウクライナ選手団が2024高円宮杯フェンシングワールドカップ(群馬県/高崎アリーナ)に参加したことにより、本事業の実施が各国NFに周知された。

フェンシングNFは、本事業による国際貢献がウクライナNFのみならずIFへのアピールにも繋がったと実感しており、来年度以降も本支援事業を継続的に実施することにより、国際スポーツ界における日本全体のプレゼンスの向上を図ることが出来るものと思われる。
詳細は、別紙4を参照。

(4) 体操

体操NFは昨年度に続き、ウクライナから新体操の選手団を招へいした。32名(コーチ・スタッフ等含む)が来日し、高崎アリーナ等で1か月に渡り合宿を行った。合宿中には、フェアリージャパンとの合同練習や演技披露会など充実した活動を行った。

本事業後に、エストニアで開催された「Miss Valentine Tartu Grand PRIX」では、個人総合で、日本合宿に参加した選手が見事に1位・2位・4位を獲得。また、ジュニア団体で1位、シニア団体でも2位の成績を収め、日本での合宿の成果があったと思われる。

詳細は、別紙5を参照。

2. 事業アンケート

当事業の支援を通じて参加した選手等へのアンケートにおいて、全体満足度は非常に高く、

「満足」（5段階評価の一番上）が99%となっている。また、日本への印象について、来日前の日本への印象が「とても良い」が87%であったが、来日後では、「とても良い」が91%になるなど、日本に対する印象評価が大変高いものとなった。その他、アンケートのコメントでは「初めてアジアに来ました。私達を助けてくれて感謝しています。」「このような素晴らしい練習会に心から感謝しています。日本に行くことは私の夢でした。」「日本での合宿をできる限り頻繁に行ってもらいたいと思っています。なぜなら、私たちが恐れることなく眠り、平和に暮らし、恐れずに練習できるようになるからです。」など多数の感謝とともに、「日本古来の文化を掘り下げてみたい。例えば日本の村への訪問等」のような人材交流による日本文化への興味向上の契機となっており、スポーツを通じた支援を行うことによって、日本への興味関心が非常に高くなることが分かった。

詳細は、別紙6を参照。



令和 6 年度スポーツ庁委託事業

スポーツ国際展開基盤形成事業（IF 等役員ポスト獲得支援:AB タイプ・IF 等事務局スタッフ派遣等）
ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業（国際情勢に応じた海外アスリート等支援事業）

【説明会次第】

公益財団法人 日本オリンピック委員会

■日 時：令和 6 年 6 月 6 日（木）14 時～15 時

■場 所：Japan Sport Olympic Square 3 階「会議室 1」

■次 第：

14:00～14:10 挨拶 スポーツ庁（委託元）参事官（国際担当）

柿澤 雄二 様

JOC 国際部 部長

石川 宣治



14:10～14:15 担当者紹介

14:15～14:35 説明 ① IF 等役員ポスト

・事業概要

・事業実施に係る事務手続き等

14:35～14:50 説明 ② ポスト SFT

・事業概要

・事業実施に係る事務手続き等

14:50～15:00 質疑応答



< 事前配布資料 >

次第及び概要・基準要項・申請書類様式一式（①及び②事業）

連絡先：公益財団法人日本オリンピック委員会 国際部（担当：永島、岡安、豊田、内海）

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4-2 Japan Sport Olympic Square 13F

TEL :03-6910-5956 FAX :03-6910-5960 E-mail : joc-ir@joc.or.jp



【事業概要】

スポーツ国際展開基盤形成事業（IF 等役員ポスト獲得支援：AB タイプ・IF 等事務局スタッフ派遣等）

* 事業名：「IF 等役員ポスト」と略する

■対象競技団体

- ・オリンピック競技 IF 等に日本人役員を輩出している、もしくは役員候補者を擁している NF
- ・オリンピック競技 IF、国際大会事務局等に事務局スタッフの派遣を検討している NF
- ・国際人材育成を行っている、もしくは検討している NF

■事業実施期間

令和 6 年 5 月 21 日～令和 7 年 2 月 28 日

■申請手続きについて

・申請書類

短期実施計画書【様式①】、事前基礎調査【様式②】、「IF 等役員立候補者」調書【様式③】、「IF 等役員潜在候補者」調書【様式④】、IF 等事務局スタッフ派遣実施計画書【様式⑤】、見積書等の根拠書類

※上記提出期限における「予定未定」案件については、事業執行状況を見ながら場合によっては第 2 次募集を行いますので、その際に申請ください。

- ・申請書類提出締切：7 月 1 日（月）

■申請後のスケジュール

NF 宛対象事業決定通知・実施報告関係様式 NF 宛送付：令和 6 年 7 月下旬（予定）

- 1) 実施報告書【様式⑥】
- 2) 派遣報告書【様式⑦】
- 3) 記念品配布リスト【様式⑧】
- 4) 計画変更承認申請書【様式⑨】
- 5) 事業中止届出書【様式⑩】

■主な変更点

（1）事業の実施期間（基準要項 P.3）

変更前：翌年 3 月末まで対象 変更後：原則として翌年 2 月末まで対象



(2) 「潜在候補者調書」【様式④】(基準要項 P.8)

今年度より使用の新様式。支援対象者として申請希望される方で、長期的計画で将来ポスト獲得を目指す方(=潜在候補者)の情報を入力。

(3) 採択事業の実施前報告について(基準要項 P.10)

変更前：支援を希望する経費の最終見積書等書類を実施2週間前に提出。

変更後：上記書類の提出作業を廃止。

(4) 採択後、事業計画に変更が発生した事業(基準要項 P.10)

「計画変更承認申請書」を提出

※本会の承認を得ず、事業実施した場合、支援対象外となる場合があるため注意。

※変更内容によっては、本会にて決裁を取るため、承認までに時間を要する。

採択後、事業中止(キャンセル)になった事業(基準要項 P.10)

「事業中止届出書」を提出。

(5) 実施(渡航)後の報告および証憑書類等の提出締切(基準要項 P.10～)

変更前：帰着後、2週間以内に提出

変更後：帰着後、1か月以内に提出

※令和7年2月実施事業は、3月14日(金)までに実施(渡航)後の報告および証憑書類等を提出。

■注意事項

(1) 申請時、上限額にとらわれず、現時点で予定している事業で、NF 負担経費のすべてについて短期実施計画書【様式①】に記載すること。

(2) 事業実施(渡航)後の報告の際、支援を希望する経費の証憑書類等提出において、消費税区分(課税/非課税・不課税・免税)が確認できる書類を提出。

※主に渡航費

(3) 不明点、問題点等が発生した場合は、本会国際部まで速やかに連絡すること。
(連絡先は【説明会次第】に記載あり)



【事業概要】

ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業（国際情勢に応じた海外アスリート等支援事業）

* 事業名：「ポスト SFT」と略する

■対象競技団体

オリンピック競技 NF のうち、今年度、紛争等国内の情勢により自国内で十分な練習環境が確保できない海外アスリートが日本及び近隣のアジア地域で競技大会への出場等を目的として、日本国内で合宿やトレーニング等を実施する際の支援を予定している NF

■事業実施期間

令和 6 年 4 月 26 日～令和 7 年 2 月 28 日

■申請手続きについて

- ・ 申請書類：実施計画【様式①②】、【様式②別紙】、見積書等の根拠書類
- ・ 申請書類提出締切：7 月 1 日（月）

■申請後のスケジュール

NF 宛対象事業決定通知・実施報告関係様式 NF 宛送付：令和 6 年 7 月下旬（予定）

- 1) 事業報告書【様式③】
- 2) アンケート【様式④】
- 3) 計画変更承認申請書【様式⑤】
- 4) 事業中止届出書【様式⑥】

■主な変更点

（1）対象経費の一部変更

【国内交通費】（基準要項 P.2）

変更前：支援対象選手等が到着した日本国内の空港から、合宿地・大会開催地に向けての移動に係る交通費（往復分）。

変更後：支援対象選手等が到着した日本国内の空港から、合宿地・大会開催地に向けての移動に係る交通費（往復分）。合宿地の移動・合宿地から大会開催地間の往復移動に係る交通費は含めることも可。なお、宿泊施設から練習会場への往復移動に係る交通費については、原則日当にて対応するものとする。



(2) 対象経費の追加

【講師（コーチ）謝金】（基準要項 P.3）

講師（コーチ）を日本側で手配する場合は、講師（コーチ）が帯同する日数について、JOC

(3) 採択後、事業計画に変更が発生した事業（基準要項 P.6）

「計画変更承認申請書」を提出

※本会の承認を得ず、事業実施した場合、支援対象外となる場合があるため注意。

※変更内容によっては、本会にて決裁を取るため、承認までに時間を要する。

採択後、事業中止（キャンセル）になった事業（基準要項 P.6）

「事業中止届出書」を提出。

(4) 実施（渡航）後の報告および証憑書類等の提出締切（基準要項 P.6）

変更前：帰着後、2 週間以内に提出

変更後：帰着後、1 か月以内に提出

※令和 7 年 2 月実施事業は、3 月 14 日（金）までに実施（渡航）後の報告および証憑書類等を提出。

■注意事項

- (1) 7 月 1 日（月）の申請締切までに、様式①②の他に、予定経費の根拠書類を併せてご提出ください。
- (2) 事業実施後 1 か月以内に様式③④の他に、対象経費の証憑をご提出ください。
- (3) 渡航費の証憑として、搭乗券半券（または、航空会社発行の「搭乗証明書」、もしくは旅行会社発行の「航空券発券証明書」を必ずご提出ください。
- (4) 不明点、問題点等が発生した場合は、本会国際部まで速やかに連絡すること。
（連絡先は【説明会次第】に記載あり）

【様式③】

令和6年度ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業
(国際情勢に応じた海外アスリート等支援事業)
事業報告書

【期間】 2024年6月17日～6月24日

【場所】 Jヴィレッジ(福島県)

【参加大会名】

U-16インターナショナルドリームカップ2024 JAPAN

NF名: 公益財団法人日本サッカー協会

	記載事項	貴団体回答欄
報告事項	① 支援対象国(地域)名	ウクライナ
	② 合宿日程	添付ファイル「旅程表」の通り
	③ 大会日程	添付ファイル「旅程表」の通り 大会公式サイト: https://www.jfa.jp/match/u16_InternationalDreamCup_2024/
	④ 合宿に関する報告	当初の予定通り日程をこなした。試合日以外の日にはトレーニングを行い、大きな怪我人も出なかった。また、6/22は文化交流プログラムにて震災遺構浪江町立請戸小学校への訪問および双葉ダルマの絵付け体験を行い、日本・福島の歴史や文化に触れた。どちらも積極的に参加する姿勢が印象的であった。
	⑤ 大会に関する報告	当初の予定通り日程をこなした。6/19の初戦はU-16日本代表と対戦し、来日から調整時間が短かったことも影響し0-6と敗れた。続く6/21の2戦目はセネガル代表と対戦し、善戦したが0-1で敗れた。6/23の3戦目はU-16ベネズエラ代表と対戦し、大会通して初ゴールを奪うものの1-4で敗れた。結果的に3戦全負という結果となったが、U-16ウクライナチームとして、非常に良い強化の場になったと報告を受けている。
	⑥ 大会へのロシア・ベラルーシ選手の参加有無。参加有りの場合の他国選手の大会参加への影響について。	参加なし。
	⑦ 受入自治体や受入大学等との交流に関する報告	受入施設であるJヴィレッジは、宿泊、食事、練習会場、スタジアム、文化交流等、包括的に引き受けていただいた。6/18ウェルカムレセプションや6/22文化交流では各国の選手やスタッフが交流する姿が印象的であった。
	⑧ メディア露出に関する報告	地元メディアを中心に本事業の情報が取り上げられた。
事業実施による意識変化について	⑨ 本事業実施による、NF内での国際戦略に対する意識の変化(期待も含め)	2015年に第1回大会を開催してから、今回が8回目の大会であった。ウクライナ代表の受入としては近年2022年10月ビーチサッカー代表、2024年U-23ウクライナ代表に続いて3チーム目だったが、どのチームも戦争による国内外における生活環境、競技環境が悪化している中、日本で試合ができることに謝意を伝えられた。特に今回はU-16と若い年代がヨーロッパ以外の国と試合ができることをとてもメリットと感じていた。こうした事業を継続して主催することで、アジアおよび世界的な日本への信頼感の醸成、並びに、プレゼンス向上に繋がると考えられる。
	⑩ 本事業実施による、正内での日本NFに対する意識の変化(期待も含め)	前項で記載のとおり、事業実施によりIF内でのプレゼンス向上に繋がると感じた。本事業を継続して実施してきたことにより、今後本事業への参加を希望するヨーロッパやその他大陸のチームが出てくると期待している。

		記載事項	貴団体回答欄
今後の検討状況	⑪	今回の受入事業を踏まえ、来年度以降の日本及び近隣アジア諸国で開催される国際大会の事前合宿受入事業の検討状況。 貴NFの国際戦略への反映有無。	今回の対象国NFからは、受入事業について非常に感謝された。特に秋から始まるヨーロッパでのU17選手権大会前の強化が必要な大事な時期の受入事業だったことがポイントだったと思われる。一方で、来年度以降についても、本国の練習環境が厳しい状況は変わらない見込みであり、また日本の練習環境が非常に恵まれていることから、こうした機会が継続的に持つことができればありがたいとの意向を受けた。強化面を踏まえ、本大会への招聘国については、日本側で今後協議していく。メディアにも取り上げられ、当NFの国内・国際プレゼンスも高まることも期待できることから、当NF国際戦略の一環として来年度以降も様々な形で受入事業を検討していく。
	⑫	今回の受入事業における良かった点と、今後の改善点。	＜良かった点＞ 競技観点ではヨーロッパ(ウクライナ)、アフリカ(セネガル)、南米(ベネズエラ)、アジア(日本)と異なる大陸のチームが試合を行ったことで強化に繋がった。その他、ウェルカムレセプションや文化交流にて交流する機会を設けたことで、お互いの文化の違いを発見することができた。 ＜今後の改善点＞ ウクライナ語/英語(ウクライナ)、フランス語(セネガル)、スペイン語(ベネズエラ)、日本語(日本)と各国異なる言語を母語としているためコミュニケーションに苦労した。通訳は配置していたものの、資料や事前説明などより丁寧に対応していく必要性を感じた。
その他	⑬	備考欄(その他報告事項)	

【様式③別紙】

現地写真

※現地での活動状況が分かる写真を数枚貼付して下さい。



U-16ウクライナ代表招へい事業 行程表

日程	時間	内容	場所
6月17日	18:35	来日 (LO 79)	成田空港
	20:30	夕食	ホテルマイステイズプレミア成田
	23:30	ホテル着	Jヴィレッジホテル
6月18日	9:00	朝食	Jヴィレッジホテル
	13:00	昼食	Jヴィレッジホテル
	16:00	練習	Jヴィレッジ練習場
	18:30	ウェルカムレセプション (夕食含む)	Jヴィレッジホテル
6月19日	11:30	昼食	Jヴィレッジホテル
	15:00	試合 (vs U-16日本代表)	Jヴィレッジスタジアム
	19:00	夕食	Jヴィレッジホテル
6月20日	8:30	朝食	Jヴィレッジホテル
	11:00	練習	Jヴィレッジ練習場
	13:00	昼食	Jヴィレッジホテル
	19:30	夕食	Jヴィレッジホテル
6月21日	8:30	朝食	Jヴィレッジホテル
	12:00	試合 (vs U-16セネガル代表)	Jヴィレッジスタジアム
	14:30	昼食	Jヴィレッジホテル
	19:30	夕食	Jヴィレッジホテル
6月22日	8:30	朝食	Jヴィレッジホテル
	11:00	練習	Jヴィレッジ練習場
	13:00	昼食	Jヴィレッジホテル
	14:30	文化交流 (請戸小学校見学)	請戸小学校
	16:30	文化交流 (双葉ダルマ絵付け体験)	Jヴィレッジホテル
	19:30	夕食	Jヴィレッジホテル
6月23日	8:30	朝食	Jヴィレッジホテル
	12:00	試合 (vs U-16ベネズエラ代表)	Jヴィレッジスタジアム
	14:30	昼食	Jヴィレッジホテル
	19:30	夕食	Jヴィレッジホテル
6月24日	8:30	朝食	Jヴィレッジホテル
	11:00	昼食	Jヴィレッジホテル
	16:00	東京観光	渋谷
	22:35	離日 (LO 80)	成田空港

【様式③】

令和6年度ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業
(国際情勢に応じた海外アスリート等支援事業)
事業報告書

【期間】 2024年10月14日～11月1日

【場所】
講道館、修徳高校、足立学園(東京都)
天理中学・高校、天理大学(奈良県)

NF名: 公益財団法人 全日本柔道連盟

	記載事項	貴団体回答欄
報告事項	① 支援対象国(地域)名	ウクライナ
	② 合宿日程	添付ファイルのとおり。
	③ 大会日程	今回は大会には参加しなかった
	④ 合宿に関する報告	本事業は、前年度に続き2回目の開催であった。 前回は、約1週間は静岡県の高校に滞在したが、今年度はより競技力の高い天理大学に滞在した。天理滞在中は、元世界チャンピオンで天理大学柔道部監督である穴井隆将氏の指導を受け、14歳～17歳の選手は天理中学や天理高校で練習を行うなど、同年代の選手と練習を行う機会を作ることができた。 東京においては、修徳中学・高校や足立学園への出稽古のほか、講道館で行われた実業団の練習に参加するなど精力的に練習をこなす一方で、オリンピックメダリスト等から投技、寝技の講習会や、投の形の講習を受講した。また、ウェートトレーニングの方法などに関する講習会も行った。参加者からは非常に質の高い練習が出来たこと、また複数の講習会を通じてテクニカルな知識を得ることができたと好評であった。
	⑤ 大会に関する報告	大会には参加していない
	⑥ 大会へのロシア・ベラルーシ選手の参加有無。参加有りの場合の他国選手の大会参加への影響について。	大会には参加していない
	⑦ 受入自治体や受入大学等との交流に関する報告	天理では、天理大学学長や天理市長を表敬訪問した。また、天理に滞在した期間は、約8名の天理大学柔道部学生ならびに天理大学に在籍しているウクライナからの留学生の皆さんにウクライナ柔道チームの練習ならびに生活をサポートいただいた。 東京においては、修徳高校で昨年も練習を行っており、昨年の参加者は1年ぶりの再開を喜んでいる様子が印象的であった。修徳高校生は、11月30日に開催された「感謝の集い」において生徒代表者がスピーチを行い、食事会では言葉の壁を越えて簡単なゲームを通じた交流で大いに盛り上がった。また、10月19日に講道館で開催された高校合同練習会では、多くの高校生と一緒に練習をすることができ、汗を流しながら良い交流の機会を持つことができた。
	⑧ メディア露出に関する報告	添付ファイルの通り
事業実施による意識変化について	⑨ 本事業実施による、NF内での国際戦略に対する意識の変化(期待も含め)	前年に続き、ウクライナ柔道チームの招へい事業を実施したが、彼らの置かれている状況等については依然として非常に厳しいものであるとのことであった。 以前より、当連盟が行っている経済的に困難な国への支援とは異なり、目の前の選手が自国では場合によっては命にかかわるような危険な状況下での生活を強いられていることに心が痛む思いがした。一方で、日本滞在中は存分に練習に打ち込むとともに、日本の文化や習慣も存分に体験していただきたいとの思いでこの事業を実施した。 また、本事業はメディア等にも取り上げられ、一定の注目を集めた。 改めてウクライナの困難な情勢が一日も早く解決することを願うとともに、そうでない場合には今後も継続して支援をしていきたい。
	⑩ 本事業実施による、正内での日本NFに対する意識の変化(期待も含め)	国際柔道連盟(IJF)本部には、ウクライナ出身の職員(Ms. SKOROKHODOVA Inna)もあり、本件については共有を行いながら進めていった。今後もウクライナに対して継続的な支援を行うことで、IFにおける日本のプレゼンスもこれまで以上に高まることが期待される。

		記載事項	貴団体回答欄
今後の検討状況	⑪	今回の受入事業を踏まえ、来年度以降の日本及び近隣アジア諸国で開催される国際大会の事前合宿受入事業の検討状況。 貴NFの国際戦略への反映有無。	ウクライナ柔道チームの役員やコーチからは昨年に続き、日本の充実した練習内容や滞在中のサポートに対する謝意が示された。選手からも、特に欧州で主流となっている「力の柔道」ではなく「技の柔道」を学べたことが良かったとの感想が多く聞かれた。今後、本事業に参加した選手は、国内外の大会に参加する予定であり、今回、特にテクニカルな部分で学んだことをウクライナに帰国後も継続的に取り組みたいと非常に意欲的であった。 一方で、ウクライナ国内の状況は非常に厳しいものがあり、道場が戦争の影響を受け破壊されたところも少なくない。当連盟としては、引き続き、ウクライナへの支援を継続して行いたい。 また、本事業ではオリンピックメダリストを講師として講習会を開催し、その様子をメディアに公開した。今後も、同事業を実施するのであれば、メディアの活用もさらに進めていきたい。
	⑫	今回の受入事業における良かった点と、今後の改善点。	＜良かった点＞ 天理での練習においては、中学～大学と年代が幅広く、ウクライナの選手も自身の年代に沿った選手と練習をすることができた。また、日本文化の体験（瓦作りや東大寺見学）等においても、日本文化を学ぶ良い機会を作ることが出来た。また、前回に続き、メダリストのレベルの高い講習内容は非常に好評であった。 ＜今後の改善点＞ 今回、ウクライナ女子選手が講道館での一般練習などで日本男子選手と練習することが複数回あった。次回は出稽古等で日本の女子選手とより多く練習できる機会を増やしたい。
その他	⑬	備考欄（その他報告事項）	昨年に続き参加した選手で、成長により体が大きくなっている選手や茶帯から黒帯に昇段している選手が多く、彼らの成長を実感した。一方で、今回の招へいに至るまでに、自国ではシエルター生活を繰り返し強いられている状況に対して、彼ら自身の「早く（自国において）柔道に集中できる環境になってほしい」という言葉が実現することを強く願っている。

【様式③別紙】

現地写真



駐日ウクライナ大使との集合写真



中村兼三氏(アトランタ五輪金)による寝技の講習会



乱取稽古の様子



ウルフアロン選手の講習会



取材対応の様子



書道体験(嘉納師範生誕祭プログラムの一環)



集合写真(実業団との練習後)



練習後のオフショット



「感謝の集い」における集合写真

ウクライナ招聘事業 2024年10月14日～11月1日 日程

	日付	曜日	行 程		バス移動	備考
到着	10月14日	月	到着(LO79 成田空港18:35着)		①成田空港→講道館	LO79 18:35着/ 講道館21時～22時
2日目	10月15日	火	9:45～11:15柔道指導 講師:中村隼三	13:00-17:00ウクライナ大使館訪問、永昌寺訪問 18:00-20:00柔道の練習(講道館一般練習)	②都内近郊(5時間)	12:00-17:00
3日目	10月16日	水	10:00～12:00ジム(自主練習)	17:30～19:30柔道の練習(講道館実業団練習)		
4日目	10月17日	木	10:00～12:00トレーニング講習 講師:小野祐希	15:40～柔道の練習(修徳高校)		
5日目	10月18日	金	10:00～12:00ジム(自主練習)	柔道の練習 (女子実業団練習17:00～、男子足立学園16:00～)		
6日目	10月19日	土	10:00～12:00ジム(自主練習)	14:00～16:00高校生と合同練習(講道館)		
7日目	10月20日	日	9:00～17:00東京から天理へバス移動		③講道館→奈良※	9:00出発予定 ※宿泊先:モリノゲストハウス
8日目	10月21日	月	11:00～ 天理大学 学長表敬訪問	15:00～柔道クリニック 講師:穴井隆将		
9日目	10月22日	火	6:45～7:30天理大学 ラントレーニング 10:00～ ウエイトレーニング	15:30～稽古(天理中学、天理高校) 16:30～稽古(天理大学)※分散練習		
10日目	10月23日	水	6:45～7:30天理大学 ラントレーニング	16:30～稽古(柔道場に天理市長訪問)、 公開取材日 19:30 歓迎会(柔道部田町寮)		
11日目	10月24日	木	6:45～7:30天理大学 ラントレーニング 10:00～ ウエイトレーニング	15:30～稽古(天理中学、天理高校) 16:30～稽古(天理大学)※分散練習		
12日目	10月25日	金	10:30～16:00 スポーツツーツーリズム奈良(日本文化体験)	16:30～天理大学 稽古	④スポーツツーツーリズム	
13日目	10月26日	土	自由時間	13:30～天理大学 稽古		
14日目	10月27日	日	9:00～17:00天理から東京へバス移動		⑤天理→講道館	9:00出発 ※途中昼食を取りながら東京へ戻る 到着:16:00～17:00
15日目	10月28日	月	10:00～12:00ジム(自主練習)	嘉納師範生臨祭イベント(講道館) 13:30-15:00講義・書道体験 15:30-17:00技の形講習① 18:00-18:30技の形講習② 18:30-19:45講道館一般練習参加		講義:向井先生 書道体験:大辻先生、片山先生 技の形講習:向井先生
16日目	10月29日	火	10:00～12:00トレーニング講習 講師:小野祐希	15:40～柔道の練習(修徳高校)		
17日目	10月30日	水	10:00～12:00ジム(自主練習)	15:30～17:00ウルフ・アロン選手による技講習 17:30～20:00柔道の練習(講道館実業団練習) メディア公開日		報道受付:第1部 講道館6階 (15:15～15:30) 第2部 講道館8階 (17:20～17:45)
18日目	10月31日	木	都内観光(お台場、東京タワー)	18:00 感謝の会(講道館教室、Habibi)	⑥都内観光	本末館、マダム・タッソー、東京タワー、渋谷(原宿(車窓))
出発	11月1日	金	12時チェックアウト	出発(LO80成田空港23:05発)	⑦17:40 講道館→成田空港	LO80 23:05発

【柔道】ウルフ・アロンがウクライナ選手を指導「当たり前じゃない」「平和への願い募らせる

10/30(水) 20:02 配信



講道館でウクライナ選手の指導を行っていたウルフ・アロン（前列右から3人目）

柔道男子100キロ級で21年東京五輪金メダルのウルフ・アロン（パーク24）が30日、東京都文京区の講道館で行われたウクライナチーム柔道交流会に参加し、13～20歳の男女計29選手の指導を行った。全日本柔道連盟がロシアによる侵攻で自国で十分な練習環境を確保できない選手を支援しようと、前年度からプロジェクトを実施。ウルフの参加は初めてで、得意の内股や大内刈りを指導した。

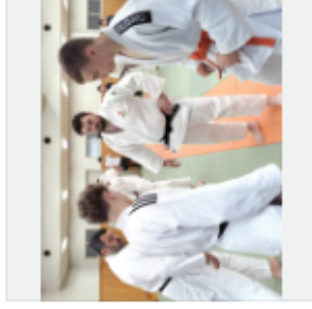
約1時間半かけて丁寧に指導し、終了後には記念品として日付と自身の名前が刻まれた箸とサイン色紙を1人1人に手渡したウルフは、「初めて海外の選手に指導した。日本人なら言葉で伝えられるが、海外の人なのでゼスチャーや単語が大事だと思った。勉強になった」と感想を述べた。

今回招待された選手29人のうち、22人が首都キーウ、7人はロシア国境近くに位置し、昨年のU23欧州選手権で準優勝した女子70キロ級のアナ・オリネク（17）は「同じ柔道選手でも戦場に行っている人もいる。ここにいる選手の半数の父親やきょうだいは戦場に行っている」などと母国の生々しい現状を語った。

来年6月に現役を退くことを発表しているウルフも、「今、柔道をやっているのは、当たり前じゃないと思った。僕に何かできることがあればという思い。貴重な体験ができ」と平和への願いを募らせた。

ウルフ・アロン、ウクライナ選手団に技を指導「柔道をやっていることが当たり前じゃないと感じた」 名前入りの箸もプレゼント

10/30(水) 23:01 配信



ウクライナの選手に指導するウルフ・アロン（中央）（カメラ・林直史）

柔道男子100キロ級の東京五輪金メダリストで今夏パリ五輪代表のウルフ・アロン（パーク24）が30日、東京・文京区の講道館でウクライナから来日中の13～20歳の男女29選手に技の指導を行った。

全日本柔道連盟（全柔連）がロシアによる侵攻を受け、自国で十分な練習環境が確保できないウクライナの選手を約半月間、日本に招待。ウルフは得意の内股や大内刈りのコツを伝え「初めて海外の選手に技の指導をしたので、ゼスチャーとか単語を使っていくのが大事なんだなと初めて感じる事ができた。僕自身も大きな勉強になった」と振り返った。

来日した選手たちはミサイルによる攻撃で道場が損壊するなど、大きな被害を受けている。ウルフは「今、柔道をこうやってやっていることが当たり前じゃないと改めて感じた。僕に何かできることがあったらという気持ちもある中でのこういった活動だったので、もっともつとやれることがあるなら」と決意。指導後には「せっかく日本に来てくださったので、何か日本に親しみを持てるようなものを」と、自身の名前入りの箸を全員にプレゼントした。

ウルフは来年6月の全日本実業団対抗大会を最後に現役を引退する意向を表明している。当初は日本代表として最後の大会とする予定だった12月のグランドスラム東京大会については「今のところ出ない」と見送る考えを示した。優勝経験を持つ体重無差別の全日本選手権への挑戦も期待されるが、今後の大会出場については「ちょっと検討に検討を重ね、その検討にも検討を重ねていきたいなと思っております」と言葉を濁した。

ウルフが得意技を指導 ウクライナの選手たちを招待―柔道

時事通信 運動部

2024年10月30日19時48分 配信



来日したウクライナの選手たちと交流したウルフ・アロン（前列左から4人目）＝30日午後、東京都文京区



ウクライナの若い柔道選手を日本に招待して交流する全日本柔道連盟のイベントが30日、東京都文京区の講道館で行われ、東京五輪男子100キロ級金メダルのウルフ・アロン（パーク24）が得意の大内刈りと内股を指導した。

〔写真特集〕柔道、日本の五輪金メダリスト

ウルフは13歳から20歳を中心とする男女約30人に対して、技のポイントを丁寧に教えた。戦争が激しい地域の出身や、家族が戦闘に参加している選手も多く、ウルフは「今、僕たちが柔道をやっていることが当たり前じゃないと改めて感じることができた」と振り返った。

17歳の女子選手、オリ・ネクさんは「貴重な経験。きょう教えてもらった技術を繰り返し練習して自分のものにしたい」と笑顔で話した。

ウクライナの柔道選手に技術講習 ウルフ・アロン「貴重な交流」

共同通信 2024年10月30日 19:48

柔道男子100キロ級で東京五輪覇者のウルフ・アロン（パーク24）が30日、東京都文京区の講道館でウクライナのジュニア選手に技術講習を行った。得意の内股や大内刈りを実演しながら教え「どんどん強さを追求してほしい」と語りかけた。

国の海外アスリート支援事業の一環として、全日本柔道連盟が実施。ロシアの侵攻による被害の大きな首都キーウ（キエフ）、北部チェルニヒウから約30人の選手らが参加した。ウルフは「自由に柔道に取り組める環境ではないと思うともどかしい。貴重な交流になった」と神妙な面持ちで語り、自身の名前を入れた箸を記念に贈った。



ウクライナのジュニア選手に指導するウルフ・アロン（右）＝30日、東京都文京区

【様式③】

令和6年度ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業
(国際情勢に応じた海外アスリート等支援事業)
事業報告書

【期間】 2024年11月30日～12月9日

【活動・場所】

合宿:NTC(東京都)

2024ワールドカップ高円宮杯:高崎アリーナ(群馬県)

NF名: 公益社団法人日本フェンシング協会

	記載事項	貴団体回答欄
報告事項	① 支援対象国(地域)名	ウクライナ
	② 合宿日程	添付ファイル参照
	③ 大会日程	添付ファイル参照
	④ 合宿に関する報告	予定通りに来日し、高円宮杯ワールドカップ(群馬県高崎市)に向けて事前合宿を行った。予定していたNTC-EASTが使用できなかったことでNTC-WESTの共用コートを使用し、ピストを設置し合宿を行なった。スペース的には問題なかったものの、ピスト数は予定より少なくなったことで時間的制約など多少不便を強いてしまった。しかし日本人選手をはじめ各国の参加選手と思う存分練習を豊富に行えたことは、母国での練習環境に苦慮しているウクライナチームにとって非常に良い機会となった。また宿泊についてはアスリートビレッジに滞在したこと、館内の移動のみで完結できたことは、コンディショニング的にも良かった。
	⑤ 大会に関する報告	大会には個人戦前日にNTCから赤羽～大宮を経由し新幹線で高崎入りした。個人戦ではYUNES選手、HOIDA選手が決勝トーナメントに進出し、38位が最高位であった。団体戦では最終順位は昨年より1つ順位を上げ14位であった。
	⑥ 大会へのロシア・ベラルーシ選手の参加有無。参加有りの場合の他国選手の大会参加への影響について。	今年は10名のAIN(ロシア・ベラルーシの中立選手)の出場があった。※1名は当日欠場 予選でも直接対決するシーンはあったが、互いに割り切っているところもあり、混乱は生じなかった。
	⑦ 受入自治体や受入大学等との交流に関する報告	今年は合宿最終日に練馬区にクラブを構えるNEXUS FENCING CLUBにて練習会を行なった。 ウクライナ代表選手が子供達を実際に練習で指導し、また一緒に実践練習にも小中学生と素晴らしい交流をすることができた。また、子供達から花束を贈呈し、練習場所に苦慮する同国代表を温かく迎えることができ、あらためて両国の絆がより強固なものになったと感じた。
	⑧ メディア露出に関する報告	NFよりプレスリリースを行ない、交流会当日にはTV局1社を含む4社が取材した。大会期間中に連日メディアが訪れて取材していた。依然として終わらない侵攻により、競技環境に苦慮している様子を赤裸々に語っていた。
事業実施による意識変化について	⑨ 本事業実施による、NF内での国際戦略に対する意識の変化(期待も含め)	R5年度に引き続き、ウクライナ代表招聘事業を実施したことで、またその他の事業含めて国際貢献に積極的な姿勢をもつことで、NF内でも理事会での報告もしており、国際戦略の一環として当事業を行なっているという共通意識が根付いたといえる。また、このようなウクライナ招聘がきっかけでパリ五輪前の事前合宿には同国のエベ種目代表が練習相手として協力してくれたことが同種目での金メダル獲得にも繋がったことから、国際戦略を実現していくことがあらゆることに繋がっているのだと確信している。
	⑩ 本事業実施による、IF内での日本NFに対する意識の変化(期待も含め)	今回の招聘事業でもウクライナ代表コーチがSNSに感謝の意を投稿したことで、フェンシングではロコモも含め世界各国の知るところとなっている。IFでは依然としてロシア系のネットワークも強いが、日本のフェンシングとウクライナがどのような歴史的背景があるかはいまでもなく、国の事業としてアクションを起こしている国であるということは、IF内でも認知されているように感じている。

		記載事項	貴団体回答欄
今後の検討状況	⑪	今回の受入事業を踏まえ、来年度以降の日本及び近隣アジア諸国で開催される国際大会の事前合宿受入事業の検討状況。 貴NFの国際戦略への反映有無。	基本的にはウクライナに限らず今後も世界情勢等で困難な状況にある国のフェンシング選手(チーム)に対して継続的に受け入れていく国際貢献の姿勢を持ち続けていきたい。国際競技力の向上と国際貢献の両輪で世界の中の日本をアピールしていくことは重要であると考えている。 叶うものであれば、東京だけでなく地方都市でも招聘事業を実施したいと考えている。
	⑫	今回の受入事業における良かった点と、今後の改善点。	＜良かった点＞ 昨年に引き続き、事業を実施できたことで両国の信頼関係が更に深まったこと。そして招聘事業のノウハウが身についてきたこともNFとしての財産になると考える。しかし何よりも、当たり前の練習が出来ていないウクライナ選手が合宿を通じて、笑顔になってくれることがこの事業最大の成果だと感じている。 ＜今後の改善点＞ 本事業担当者含め、この招聘時期とIF総会が重なることから労力と人的リソースに課題があり、日本文化に触れる機会や観光の場を設ける時間が少なかったこと。
その他	⑬	備考欄(その他報告事項)	昨年に引き続きご支援いただき有り難うございました。

高円宮杯事前合宿(NTC-WEST) 11/29-12/4



交流会(NEXUS FENCING CLUB) 12/4



合宿行程表(移動行程表、練習日程表、大会日程表)

種 目: 男子フルーレ 期間: 2024/11/29(日本着11/30)～2024/12/08(日本発12/9)

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目
宿泊先	アスリートビレッジ	アスリートビレッジ	アスリートビレッジ	アスリートビレッジ	アスリートビレッジ	アバホテル高崎	アバホテル高崎	アバホテル高崎	アバホテル高崎	宿泊先
月日	11月29日	12月1日	12月2日	12月3日	12月4日	12月5日	12月6日	12月7日	12月8日	12月9日
曜日	(金)	(日)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(日)	(月)
6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00
6:30	6:30	6:30	6:30	6:30	6:30	6:30	6:30	6:30	6:30	6:30
7:00	7:00 朝食	7:00 朝食	7:00 朝食	7:00 朝食	7:00 朝食	7:00 朝食	7:00 朝食	7:00 朝食	7:00 朝食	7:00
7:30	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30
8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00 朝食
8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	8:30 朝食
9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00
9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30
10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00
10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30
11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00
11:30	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30	11:30
12:00	12:00	12:00	12:00	12:00	12:00	12:00	12:00	12:00	12:00	12:00
12:30	12:30 昼食	12:30 昼食	12:30 昼食	12:30 昼食	12:30 昼食	12:30 昼食	12:30 昼食	12:30 昼食	12:30 高円宮杯 ワールドカップ	12:30
13:00	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00
13:35	13:30	13:30	13:30	13:30	13:30	13:30	13:30	13:30	13:30	13:30
14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00
14:30	14:30	14:30	14:30	14:30	14:30	14:30	14:30	14:30	14:30	14:30
15:00	15:00	15:00	15:00	15:00	15:00	15:00	15:00	15:00	15:00	15:00
15:30	15:30	15:30	15:30	15:30	15:30	15:30	15:30	15:30	15:30	15:30
16:00	16:00	16:00	16:00	16:00	16:00	16:00	16:00	16:00	16:00	16:00
16:30	16:30	16:30	16:30	16:30	16:30	16:30	16:30	16:30	16:30	16:30
17:00	17:00	17:00	17:00	17:00	17:00	17:00	17:00	17:00	17:00	17:00
17:30	17:30	17:30	17:30	17:30	17:30	17:30	17:30	17:30	17:30	17:30
18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	18:00
18:30	18:30	18:30	18:30	18:30	18:30	18:30	18:30	18:30	18:30	18:30
19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	19:00
19:30	19:30 夕食	19:30 夕食	19:30 夕食	19:30 夕食	19:30 夕食	19:30 夕食	19:30 夕食	19:30 夕食	19:30 夕食	19:30
20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00
20:30	20:30	20:30	20:30	20:30	20:30	20:30	20:30	20:30	20:30	20:30
21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	21:00
21:30	21:30	21:30	21:30	21:30	21:30	21:30	21:30	21:30	21:30	21:30
22:00	22:00	22:00	22:00	22:00	22:00	22:00	22:00	22:00	22:00	22:00
22:30	22:30	22:30	22:30	22:30	22:30	22:30	22:30	22:30	22:30	22:30
23:00	23:00	23:00	23:00	23:00	23:00	23:00	23:00	23:00	23:00	23:00

※7名 TK199便にて、
12/9 21:45羽田発)
～イスタンブール経由
ワルシャワ
※1名 UA38便にて、
12/9 19:40羽田発)
～ロサンゼルス

【様式③】

令和6年度ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業
(国際情勢に応じた海外アスリート等支援事業)
事業報告書

【期間】 2025年1月13日～2月15日

【場所】
高崎アリーナ、新町防災アリーナ(群馬県)

NF名: 公益財団法人日本体操協会

	記載事項	貴団体回答欄
報告事項	① 支援対象国(地域)名	ウクライナ
	② 合宿日程	
	③ 大会日程	高崎シルクカップ(高崎アリーナ) 2月8日 13:40 - 18:00 個人総合 2月9日 15:25 - 16:30 団体/17:00 - エキシビション (高崎シルクカップ:高崎新体操クラブ(高見澤美枝代表)が主催する新体操競技大会。全国から約500人のシニア選手、ジュニア選手が、個人総合/団体競技を行う。) 2025 Miss Valentine Tartu Grand PRIX 2/28 - 3/2 2月28日、3月1日 予選 3月2日 決勝
	④ 合宿に関する報告	予定通りでの合宿日程を実施した。 9か所の地元クラブと合同練習を行い、多くの選手と交流を持てた。また、新体操日本代表フェアリージャパンPOLAとも合同合宿を行い国際的な交流が出来、両国の選手たちにとっての刺激となったようであった。 (合同練習チーム:新体操日本代表フェアリージャパンPOLA/GYM & JOY + /MARUDAスポーツクラブ/Team Diana/高崎ジュニアRG Club/高崎市体操協会新体操部/Sunny RG/高崎新体操クラブ/高崎市中学校体操連盟/RMK高崎)
	⑤ 大会に関する報告	高崎シルクカップは、当初予定通り2月8～9日に行われ、多くの選手が出場した。エキシビションでも多くの選手が演技を行い、地元の大きな声援を受けた。 エストニアで開催された「Miss Valentine Tartu Grand PRIX」では、21名が出場したシニア個人総合で日本合宿に参加した選手が見事に1位・2位・4位を獲得した。また、合宿参加のチームがジュニア団体で1位、シニア団体では2位の成績となっており、日本での合宿の成果があったと思われる。世界選手権等に向けて選手が順調に仕上がっているようだ。
	⑥ 大会へのロシア・ベラルーシ選手の参加有無。参加有りの場合の他国選手の大会参加への影響について。	参加なし。
	⑦ 受入自治体や受入大学等との交流に関する報告	受入自治体である高崎市が1月15日に高崎アリーナで富岡賢治高崎市長による歓迎セレモニー。 1月20日に高崎アリーナで高崎新体操クラブと合同練習、23日にはチラシを地元で配布した演技披露会を実施。28日に地元小学校を招き見学会・交流会を実施。2月4日には新体操日本代表フェアリージャパンPOLAと合同練習を行った。 2月14日の練習最終日にはさよならセレモニーが行われた。
	⑧ メディア露出に関する報告	事前に地元メディアにプレスリリースしていたことから、歓迎セレモニーや1月20日、2月4、20、24日の公開練習、1月23日の演技披露会、高崎シルクカップ、さよならセレモニーを地元テレビ局・新聞社が取材、取り上げられた。
事業実施による意識変化について	⑨ 本事業実施による、NF内での国際戦略に対する意識の変化(期待も含め)	日本体操協会では体操界をリードする立場として、全世界の希望する国からの日本合宿およびコーチ派遣を毎年度続けており、協会内で国際交流について一定の認識を持っていた。 本事業を継続して実施することにより、国際交流はもとより、体操を通じて、困っている人々を助ける国際貢献に対する意識が高まり、国際貢献を通じた体操界における日本のIF内での地位向上につながるなどの認識が増した。
	⑩ 本事業実施による、IF内での日本NFに対する意識の変化(期待も含め)	欧州ではロシアに対する反発がある。今回の事業実施では国際貢献であるがため、賞賛があり、欧州での日本に対する見識が良い方向に増すことが期待される。 今回来日したヘッドコーチは合宿会場の高崎アリーナを世界最高の体育館と受け入れ先だと表明しており、これからは各国で日本の良さを拡散することが期待される。国際連盟選挙協力に対して相手国へのお礼にもつながると思う。

		記載事項	貴団体回答欄
今後の検討状況	⑪	今回の受入事業を踏まえ、来年度以降の日本及び近隣アジア諸国で開催される国際大会の事前合宿受入事業の検討状況。 貴NFの国際戦略への反映有無。	今回の事業ではウクライナより大変感謝をされて無事終了を迎えた。 しかし、ウクライナ本国では何年も連日戦争が続き、予断を許さない状況が続いている。 できる限り継続的な受け入れを考えており、来年度以降も日本での国際大会直前での合宿もしくは、電気がなく空調などの影響で練習環境が悪化する冬期の練習を検討している。
	⑫	今回の受入事業における良かった点と、今後の改善点。	<良かった点> 世界トップの強豪国の1つであるウクライナが来日したことにより、日本のナショナルチームと合同練習することができ、日本のレベルアップにつながった。また、地域の新体操選手たちとも合同練習が行え、地域での普及にもつながった。 <改善点> もう少し、スケジュール調整を上手に行い、合同練習等を増やして、日本の強化、普及によりつなげていきたい。
その他	⑬	備考欄(その他報告事項)	今回4回目となったウクライナ避難合宿。ロシア侵攻が長期化し、日本のニュースで取り上げられることも減り、協力者も減ることが予想されている。しかし、ウクライナの悲哀は続いており、世界新体操界にとってもウクライナの新体操の歴史の火を消してしまわないようにしなければならない。今回の事業は渡航費のほとんどをポストスポーツフットモローの支援を受けて実施した。 引き続き支援いただき、世界体操界の歴史を残せるようにお願いしたい。

【様式③別紙】

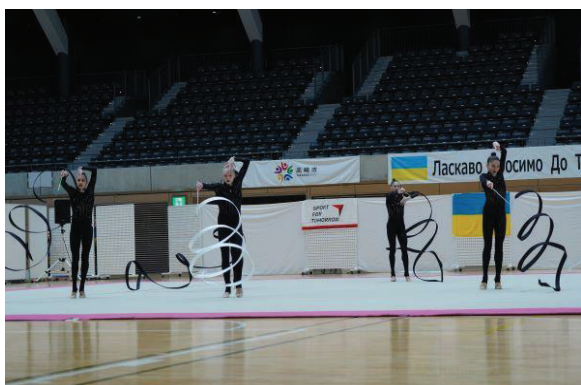
現地写真



1月15日 富岡賢治高崎市長激励(写真中央)



1月20日 地元クラブとの合同練習



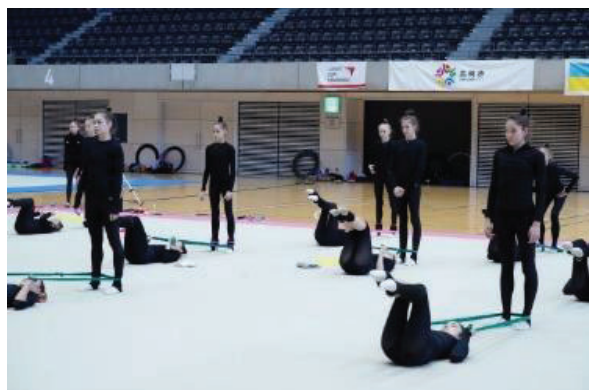
1月23日 演技披露会



1月28日 小学校見学会



2月4日 練習見学会(写真中央JGA藤田会長)



2月4日 フェアリージャパン合同練習時



2月4日 JGA藤田会長合宿激励



2月8日 シルクカップ



2月9日 シルクカップ



2月14日 さよならセレモニー

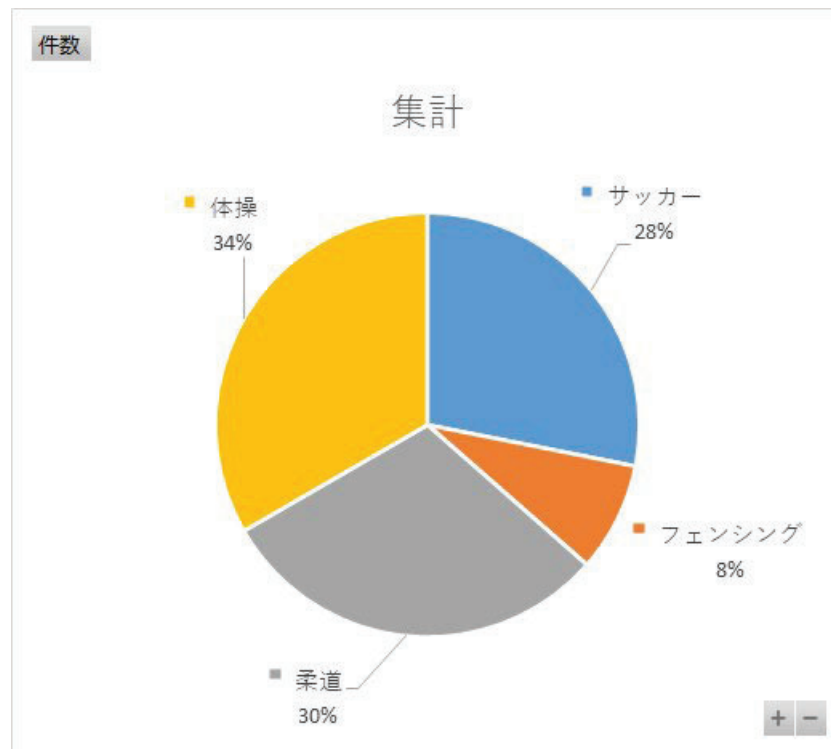
【日本体操協会】ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業 ウクライナ招へい

日程(2025/1/13 - 2/15)			
日付		場所	実施内容
2025年1月11日	土	キーウ/ ワルシャワ	キーウ→ワルシャワ行き バスにて移動
1月12日	日	ワルシャワ/ ミュンヘン	ワルシャワ発 ミュンヘン着 12:45(現地時間) ミュンヘン空港出発 ※日本時間1/12 20:45
1月13日	月	羽田	9:05(LH714便) 飛行機 羽田空港到着 (第3ターミナル) 10:30 選手団と高崎合流 バス 羽田空港出発 13:30 バス 高崎宿泊ホテル到着 オリエンテーション
1月14日	火	高崎	高崎市で合宿開始(合宿会場:高崎アリーナ、新町防災アリーナ、市内中学校体育館) 練習(高崎アリーナ)
1月15日	水	高崎	練習(高崎アリーナ) 14:30 高崎市長歓迎あいさつ・セレモニー・練習 【取材あり】
1月16日	木	高崎	練習(高崎アリーナ)
1月17日	金	高崎	練習(高崎アリーナ)
1月18日	土	高崎	練習(新町防災アリーナ)
1月19日	日	高崎	練習休み
1月20日	月	高崎	練習(高崎アリーナ),17:00-18:00高崎市体操協会新体操部との合同練習
1月21日	火	高崎	練習(高崎アリーナ),17:00-18:00SunnyRG/GYM & JOY+との合同練習
1月22日	水	高崎	練習(高崎アリーナ),17:00-18:00高崎新体操クラブとの合同練習
1月23日	木	高崎	練習(高崎アリーナ) 17:00-18:00 演技披露会(高崎アリーナ事前申込不要・観覧無料) 【取材あり】
1月24日	金	高崎	練習(高崎アリーナ)
1月25日	土	高崎	中体連との合同練習(佐野中学校、アップ、基礎トレーニング、マスタークラス、練習見学)
1月26日	日	高崎	中体連との合同練習(佐野中学校、マスタークラス、ウクライナ演技披露見学、練習見学) 交流会(検討中)
1月27日	月	高崎	練習休み／観光
1月28日	火	高崎	練習(高崎アリーナ) 14:00-15:00 小学校見学会・交流会(対象:高崎アリーナの近隣小学校) 【取材あり】 17:00-18:00 SunnyRG/GYM & JOY+との合同練習
1月29日	水	高崎	練習(高崎アリーナ),17:00-18:00高崎新体操クラブとの合同練習
1月30日	木	高崎	練習(高崎アリーナ),17:00-18:00Team Diana/高崎ジュニア体操クラブとの合同練習 /新体操日本代表「フェアリージャパン」と合同練習(1/30-2/8)
1月31日	金	高崎	練習(高崎アリーナ),17:00-18:00やわた新体操との合同練習 /新体操日本代表「フェアリージャパン」と合同練習
2月1日	土	高崎	練習(高崎アリーナ)/新体操日本代表「フェアリージャパン」と合同練習
2月2日	日	高崎	練習(高崎アリーナ)/新体操日本代表「フェアリージャパン」と合同練習
2月3日	月	高崎	練習(高崎アリーナ),17:00-18:00高崎新体操クラブとの合同練習 /新体操日本代表「フェアリージャパン」と合同練習
2月4日	火	高崎	練習(高崎アリーナ),17:00-18:00関係者向け練習見学会 【取材対応予定】 /新体操日本代表「フェアリージャパン」と合同練習
2月5日	水	高崎	練習(高崎アリーナ),17:00-18:00高崎ジュニア体操クラブとの合同練習 /新体操日本代表「フェアリージャパン」と合同練習
2月6日	木	高崎	練習(高崎アリーナ)/新体操日本代表「フェアリージャパン」と合同練習
2月7日	金	高崎	練習(高崎アリーナ)/新体操日本代表「フェアリージャパン」と合同練習
2月8日	土	高崎	シルクカップ出場(高崎アリーナ) 2/8-9 【取材対応予定】 /新体操日本代表「フェアリージャパン」と合同練習
2月9日	日	高崎	シルクカップ出場(高崎アリーナ) 2/8-9 【取材対応予定】
2月10日	月	高崎	練習休み／観光
2月11日	火	高崎	練習(高崎アリーナ)
2月12日	水	高崎	練習(高崎アリーナ),17:00-18:00高崎新体操クラブとの合同練習
2月13日	木	高崎／東京	練習(高崎アリーナ),17:00-18:00Team Diana/RMK高崎との合同練習
2月14日	金	高崎	練習(高崎アリーナ)／さよならセレモニー、専用バスで羽田へ移動 【取材対応予定】
2月15日	土	羽田/ ミュンヘン	4:00トラック ホテル到着(荷物積み込み) 4:30バス・トラック ホテル出発 7:30バス・トラック 羽田空港到着 10:45羽田発 17:10ミュンヘン着 LH715便にて10:45に羽田空港から出国
2月16日	日	ミュンヘン/ ワルシャワ/ キーウ	ミュンヘン発 ワルシャワ行、 ワルシャワ発 キーウ行き バスにて移動
2月28日 - 3月2日		エストニア	【MISS VALENTINE 2025/国際大会】 に参加

令和6年度ポストスポーツ・フォー・トゥモロー推進事業（国際情勢に応じた海外アスリート等支援事業）
アンケート結果集計

○アンケート回答件数

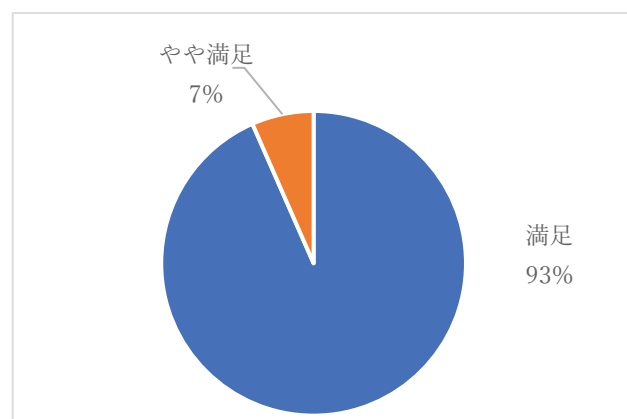
選手 66 件 / コーチ・スタッフ等 30 件 合計 96 件



アンケート回答内容

◆日本の練習または競技環境の満足度を教えてください。

（5段階評価：不満 やや不満 どちらとも言えない やや満足 満足）



◆練習または競技環境において、特に良かった点、改善してほしかった点を教えてください。

（特に良かった点）

● 主な意見等

（サッカー）

- ・ 練習場のコンディションが良い、ホテルが良い、試合用のスタジアムが非常に良い
- ・ J ヴィレッジはサッカーのトレーニングに最適な拠点である。ピッチのコンディションも良く、ホテルから徒歩 5 分である。スタジアムもとても気に入っている：小さいが、とても快適だ。
- ・ 大会運営やトレーニングのレベルが非常に高い
- ・ 参加チームが非常に良い
- ・ 大会は非常によくオーガナイズされていたし、スタジアムは気に入っている。練習場のレベルは良く、トレーニング施設も充実していた
- ・ 代表初招集ということもあり、すべてが気に入っている

（フェンシング）

- ・ こんなに素晴らしい施設は初めてみた
- ・ 前回と別の体育館だったが集中して練習が出来た
- ・ フロアの質がよく、練習しやすかった
- ・ こんなに綺麗でなんでもある施設があることに驚いた

（柔道）

- ・ すべての練習は私たちにとって非常に重要であり、必要なものでした。私たちは一瞬一瞬を大切にし、すべてを素早く学ぼうと努めました
- ・ 最高の選手との練習、ワークショップ、天理大学、すべては忘れられない経験
- ・ 経験を共有してくれた経験選手、数多くの乱取り、ワークショップ、講道館や天理で最高の選手との練習
- ・ 世界最高の柔道家によるワークショップ、日本の強高校での練習、小野コーチによる柔道トレーニングのワークショップ、最高の専門家に学び、一緒に稽古をできた
- ・ 特に良かった点は、稽古、宿泊施設、バランスの良い食事。すべてが最高レベルでした

（体操）

- ・ すべてが最高レベルで、特にアリーナは最高レベルでした
- ・ 天井の高い素敵なホール
- ・ 高崎アリーナの全てのエリアで満足しました
- ・ 高崎アリーナとサブアリーナがすごく好きで、佐野中学校も好きでした
- ・ 高崎アリーナのコンディションが良かったです

（改善してほしい点）

● 主な意見等

（サッカー）

- ・ ロッカールームの数。レフェリーのレベル
- ・ マッサージ台にシートやタオルがない、スタジアムにマッサージ台がない
- ・ 練習場にゴミ箱を設置していただきたい。使用済みの水のボトルをどのようにすればいいのかわからなかった
- ・ 仮設のロッカールームにトイレやシャワーがない
- ・ 練習場の散水を行ってほしい
- ・ 準備期間が短い、リラクセスの時間がもっとほしい、試合と試合の間にもう 1 日ほしい、トレーニングセッションを 2 日間行い、その後試合を行う方が良い

（フェンシング）

- ・ 時間の制約があり時間に融通が利かなかったこと

（柔道）

- ・ 私の意見では、準備運動が少なすぎると思います

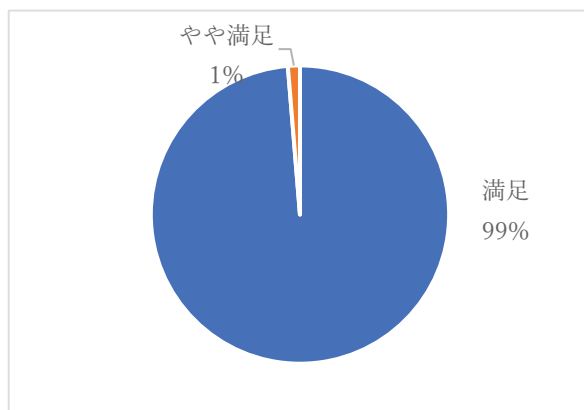
（体操）

- ・ 残念ながら、ウクライナには、トレーニングに適した大きなホールが十分ではありません
- ・ 振り付けクラス用の振り付けマシンを追加する
- ・ トレーニングカーペット（ブルー）

◆日本での滞在中の生活満足度（食事、睡眠、交流など）とその理由を教えてください。

・ 満足度

（5段階評価： 不満 やや不満 どちらとも言えない やや満足 満足）



（理由）

● 主な理由等

（サッカー）

- ・ 日本の文化が好きで、日本に来られてとても嬉しい
- ・ 大会はとても良くオーガナイズされていた
- ・ 大会の運営が良かった

（フェンシング）

- ・ 食事美味しく、宿泊環境も良かった。日本人も親切で全てにおいて満足している
- ・ 全てにおいて申し分ない。特に清潔な施設
- ・ 食事が美味しく沢山食べられる
- ・ 食事が外国人でも楽しめるメニューだった
- ・ 清潔な部屋で安心して過ごせた

（柔道）

- ・ すべてが素晴らしいです
- ・ 食べ物はとても美味しく健康的で、よく眠れました、コミュニケーションはとても楽しかった、みんなとても前向きで礼儀正しかったです
- ・ 生活環境は満足でき、食事は美味しく、チームは素晴らしかった
- ・ すべては最高でした
- ・ 生活環境は満足のいくもので、食べ物も美味しく、素晴らしいお気遣いを感じました
- ・ おいしい食事、質の高い睡眠、そして日本人のサポート
- ・ 食事は日本の文化と特色が詰まっていて、部屋はいつも広くて快適でした

（体操）

- ・ すべてが一流でした
- ・ 食事、睡眠、トレーニングは良かったです
- ・ 私は食べ物とサービスの質、とても素敵で居心地の良い部屋が好きでした
- ・ まずは、三幸ホテルに滞在するための非常に快適な洗面台
- ・ 一味違った、バランスの良い食事
- ・ バスタブの中はとても暖かく居心地の良い雰囲気です
- ・ 私たちは良い条件の素敵なホテルに宿泊しました。ホールでは昼食も用意されていました。応援してくれる優しい日本人
- ・ おいしい料理、良いトレーニング、良いホテル、フレンドリーな雰囲気、スーパードイアウト

◆当事業に参加して、特に印象的な点、改善してほしい点を教えてください。

（特に印象的な点）

● 主な意見等

（サッカー）

- ・ プログラムは良い
- ・ プログラムはとても良かった、特に、参加者全員での夕食、コーチやスタッフとのミーティングはとても有意義だった

（フェンシング）

- ・ いつも綺麗な施設と親切的な日本人スタッフ
- ・ 初めての日本は聞いていた通り、皆親切だった。我々を歓迎してくれて嬉しい
- ・ 心優しい交流会が印象的だった
- ・ 沢山の相手と練習が出来たこと
- ・ 親切的な人達に温かく迎えられて感激した
- ・ 私達のスケジュールをしっかりと考えてくれてストレスなく過ごすことができた
- ・ 大会前ということで沢山の国の選手とスパarringが出来て良かった

（柔道）

- ・ 日本の美しさ、文化、料理、そして講道館と柔道の母国を訪れるというウクライナの若い選手たちの夢が実現しました
- ・ すべての瞬間がポジティブな印象で満たされました
- ・ 日本語を話す方々とコミュニケーションをとることがとても楽しかったです
- ・ 柔道のレベル、新しい柔道家の友人たちの親切さ、サポート、そして誠実さです
- ・ 世界最高の柔道家とオリンピック選手の出会いは特に印象に残った
- ・ 高い練習のレベル、人々の親切さ、新しい柔道仲間からのサポートと誠実さ
- ・ 世界チャンピオンやオリンピックチャンピオンと出会いました

（体操）

- ・ 非常に良いサービス、人々、スタッフ。集まりや宿泊に信じられないほど良い条件
- ・ このプロジェクトで最も印象的なのは、すべてのものの整理整頓です。朝の送迎と朝食から夕方のディナーまで

（改善してほしい点）

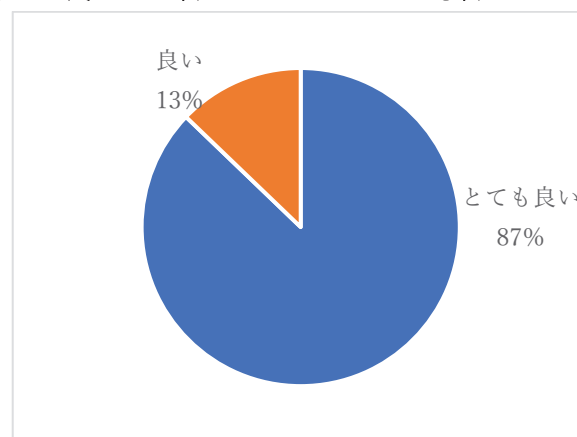
● 主な意見等

（サッカー）

- ・ 試合→休養日→試合→休養日2日→試合とした方がやりやすいかもしれない
- ・ 初戦まで1日しかなく、選手にとって準備期間が十分ではない。私の知る限り、ほとんどすべての選手が初戦の前に十分な睡眠を取れなかった。初戦の前の準備期間は2日間確保したほうが良いかもしれない

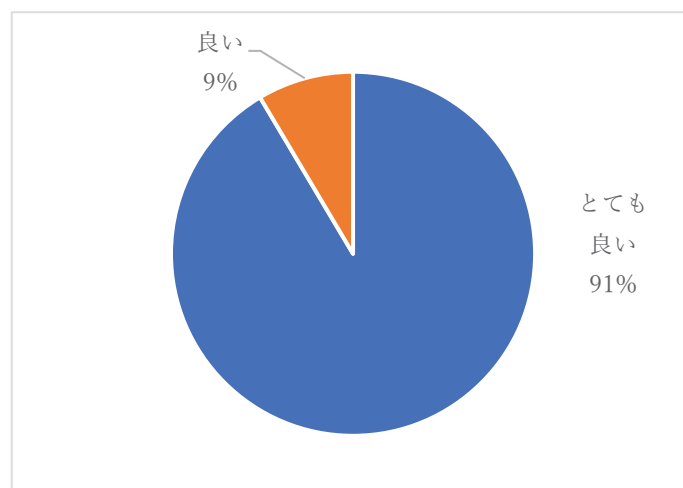
◆来日前の日本または日本の競技団体（NF）に対する印象を教えてください。

（5段階評価：悪い 良いとは言えない どちらとも言えない 良い とても良い）



◆当事業に参加後の日本または日本の競技団体（NF）に対する印象とその理由を教えてください。

（5段階評価：悪い 良いとは言えない どちらとも言えない 良い とても良い）



（理由）

● 主な意見等

（サッカー）

- ・ 自然がとても良い、山が好き、日本人が好き
- ・ 大会のレベル、環境の良さ、食事
- ・ 空港での出迎え、到着後すぐの夕食
- ・ ホテルやピッチの環境が良かったから
- ・ みんなが笑顔で親切だった
- ・ 初海外渡航、初ウクライナ代表招集だったから
- ・ 食事がおいしかった、試合運営の質が高かった

（フェンシング）

- ・ 遠いアジアの国だが身近な国となった
- ・ 私はいつも日本協会のサポートに感謝している
- ・ 日本の印象は大好きな国で、参加の前と後では変わらないくらい尊敬している
- ・ ウクライナ人のコーチがいて関係の深い国が支援してくれて嬉しい
- ・ 去年は来日できなかったので楽しみにしていた。大きなサポートをしてくれたことに感謝している

（柔道）

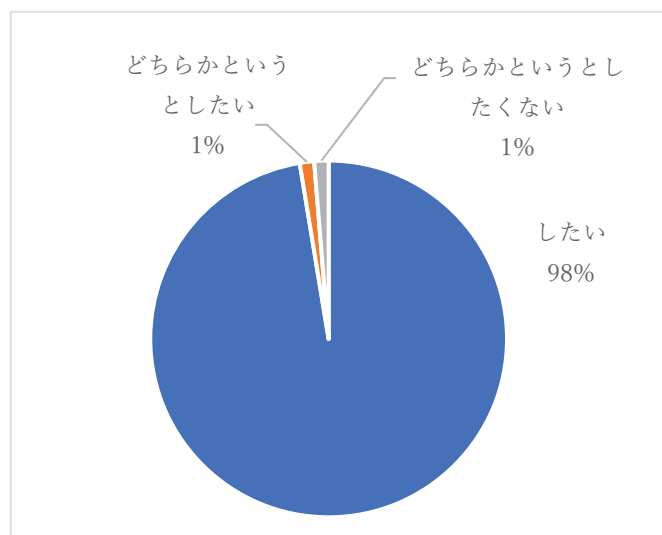
- ・ すべてが信じられないほど複雑で、興味深く、印象的でした
- ・ 様々な資格がある選手によるワークショップを多数実施
- ・ 全日本柔道連盟のおかげさまでもっと練習する、もっと優勝するやる気ができました。なぜなら、彼らが沢山の力を持っています。体力だけではなく、精神もすごいです

（体操）

- ・ すべてが最高レベルです
- ・ 快適でフレンドリーな人々
- ・ 日本体操協会 the best
- ・ 日本の体操選手と一緒に仕事ができるのは嬉しいことです。ほぼ毎日、日本人の一人と相互トレーニングセッションを行っていました。しかし、彼らから新しい経験を学ぶことは価値があり、逆もまた同様でした。

◆今後、日本での練習や大会参加、旅行の機会があれば、再度来日したいですか？また、その理由を教えてください。

（5段階評価： したくない どちらというとしたくない どちらでもない
どちらかというとしたい したい）



（理由）

● 主な意見等

（サッカー）

- ・ 他大陸のチームと対戦するのが好きだから
- ・ かけがえのない国際的なプロレベルの経験と新しい文化に関する知識、新しい印象
- ・ 接遇が良い、ホスピタリティが高い、運営レベルが高い、文化レベルが高い
- ・ 笑顔の素敵な友好的な人々、友好的、新しい興味深い食べ物や飲み物、暖かい海
- ・ ウクライナから列車とバスで長旅、その後飛行機で13時間、さらに会場までバスで3時間
- ・ 美しい国、いつでも日本に行けるわけではない
- ・ トレーニングセッションや大会の運営が完璧であること、美しい国であること、人々

が親切であること

- ・ このような対戦相手とサッカーをするのは好きだし、自分の最高のレベルのプレーができる
- ・ 新しい経験を得るため、他の大陸のチームとプレーするため
- ・ 良い経験ができ、チームもとても強かったから
- ・ 強い相手と対戦するのが好きだから
- ・ とても興味深い大会であり、このような相手と試合をしてみたい

（フェンシング）

- ・ 私達には十分な強化予算がありません。日本の環境は世界最高レベルでいつでも来たいと思っている
- ・ どんな機会でもいいのでまた日本に来たい
- ・ 安全な国で、優しく親切な日本が好きなのでいつでも来たい
- ・ 大会前でなくてもいつでも来日したい
- ・ またいつでも戻ってきたい、日本の他のエリアにも行ってみたい
- ・ 親を連れてきたい

（柔道）

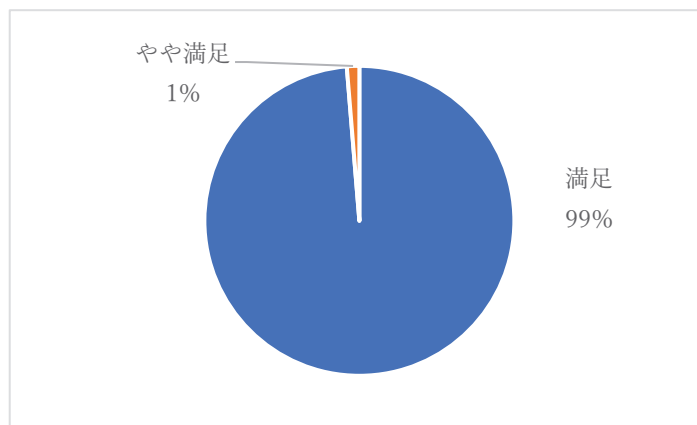
- ・ すべてはとても面白くて役に立ちました
- ・ この国はとても美しく、人々の文化はとても素晴らしいです
- ・ ここでの練習がとても気に入り、このキャンプを終えた後、確実に強くなったと感じています。ですので、ぜひまたここに戻ってきたいと思っています
- ・ 私にとって、ここは素晴らしい文化と人々がいる美しい国です。ここには強い選手もいます
- ・ 日本の人々は私達を完璧にサポートし、あらゆる質問に答えてくれるので、また日本に行きたいです。柔道のレベルも高いです
- ・ 日本には私達に伝えてくださる知識がたくさんありますので、また日本を訪れたいです

（体操）

- ・ I really liked Japan, I want to go there again
- ・ 彼らが私たちのためにしてくれるすべてのことに、私はとても興奮しています。信じられません
- ・ 日本人の温かい歓迎が好きで、このようなホールでトレーニングをし、新しい知識と経験を得るのはとても快適でした
- ・ ホールがとても気に入りました。天井がとても高いです。便利なスケジュールもございます。アリーナには十分なスペースがあり、コート上での時間と必要なスペースも十分にあるため、トレーニングはより生産的になります。

◆本事業に参加した結果、全体を通じての満足度（総評）を教えてください。

（5段階評価： 不満 やや不満 どちらとも言えない やや満足 満足）



◆最後に、今回のような支援事業が行われている国や団体へのコメントやご要望など、お願いします。

（コメントや要望）

● 主な意見等

（サッカー）

- ・ 主催団体、リエゾンオフィサー、特に JFA 職員に感謝したい。気遣い、理解、姿勢に感謝します。今日、私たちにはポジティブな感情が欠けていたが、全てを与えられた。ありがとうございました！
- ・ 歓迎していただき、コミュニケーションの姿勢や文化に感謝します。初戦までの適応時間が足りない。選手たちが時差に適応する時間が足りなかったもので、せめて2日早く到着したい。
- ・ 文化プログラムについては、日本古来の文化を掘り下げてみたい。例えば日本の村への訪問等。
- ・ 携帯やパソコンの充電に苦労した、アダプターがない。ホテルの売店でスマートフォンでの支払いができない。
- ・ アダプターがない。アダプターをいくつか購入する必要があるのかもしれない。このホテルは他国のサッカーチームを多く受け入れていると思うので、アダプターを購入するのではなく、備えてあれば便利だと思う。ホテルの売店でスマートフォンでの支払いにも問題があった。多くの選手がお土産をかうのに私のクレジットカードを使う必要があった。
- ・ 良質なコーヒーがない
- ・ このような大会を開催していただきありがとうございます。今後もできるだけこのような大会に参加したいです。

- ・ 大会は4チーム以上（8チームくらい）でも実施できたのではないかな。
- ・ このような大会にできるだけ多く参加したい。
- ・ このような大会は、我々若い選手にとって非常に有益だと思いますので、続けてください。
- ・ このような大会を開催していただき、また訪日の機会を与えていただきありがとうございます。

（フェンシング）

- ・ 私達への支援を2年に渡り実現してくれた日本政府（スポーツ庁）とオリンピック委員会、協会に感謝します。
- ・ 大きな支援に感謝します、まだ私達は難しい状況が続きます。どうかまたサポートをお願いします。
- ・ 8人のチームを招聘してくれたことはとても大きなサポートで、私達には今このサポートが必要です。感謝しています。
- ・ 初めてアジアに来ました。私達を助けてくれて感謝しています。
- ・ 私達が必要としている環境をサポートしてくれた日本に感謝しています

（柔道）

- ・ とても忙しいプログラムでしたが、皆さんの温かさを感じることができました。すべての練習は私たちにとって非常に貴重なものでした。皆様に心から感謝し、得た知識をウクライナで活かしていきたいと思います。すでに日本に戻りたい気持ちでいっぱいです。
- ・ このような重要な練習会を開催してくださった皆様に、心より感謝申し上げます。新しい知識を得られたこと、柔道の母国で練習できたこと、安全な環境で、仲間たちと共に大好きな柔道ができたことは、私たちにとってかけがえのない経験であり、子どもたちの夢をかなえる場となりました。誠にありがとうございました！
- ・ このような素晴らしい練習会を企画してくださった在日ウクライナ大使館、全日本柔道連盟、そしてスポーツ庁の皆様に深く感謝申し上げます。新たなプロジェクトと成果を期待し、皆様の平和とご繁栄をお祈りいたします。ありがとうございました！
- ・ このような素晴らしい練習会を開催していただき、心より感謝いたします。柔道の母国で最高の選手たちと共に練習するという貴重な経験は、私の夢そのものでした。
- ・ このような素晴らしい練習会に心から感謝しています。日本に行くことは私の夢でした。世界最高の選手たちと共に練習することは、非常に貴重な経験でした。ありがとうございました。
- ・ このような興味深く実りある出会いに心から感謝しています。柔道の母国に来て、貴重な経験をたくさん得ることができました。
- ・ 練習から日本人とのコミュニケーションまで、すべてがとても楽しかったです。こ

- ここに来て1ヶ月間、無事に練習を続けることができたことに心から感謝しています。
- ・ 日本に来る機会をいただき、心から感謝申し上げます。日本は柔道の母国であり、子供の頃からの夢が実現しました。今後役に立つ貴重な経験を得ることができました。
 - ・ 貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。日本に来ることは私の夢でした。素晴らしい知識と経験を得ることができ、それをウクライナの柔道仲間たちに伝えていきたいと思います。ありがとうございました！
 - ・ 日本での合宿をできる限り頻繁に行ってもらいたいと思っています。なぜなら、私たちが恐れることなく眠り、平和に暮らし、恐れずに練習できるようになるからです。
 - ・ 国際機関のさらなる発展と支援を願っております。私たちのチームはこの素晴らしい練習会を本当に楽しみ、貴重な経験を得ることができました。この素晴らしい雰囲気は決して忘れません。心より感謝申し上げます。ありがとうございました！
 - ・ この練習会をととても気に入りました。また、経験を積む機会を与えてくださった柔道連盟に感謝します。訪問したすべての場所での乱取りやワークショップもとても有意義でした。天理では、強力なスパーリングセッションと難易度が高いが非常に効果的な練習を経験し、もっと長く天理で練習したいと感じました。
 - ・ このプロジェクトに関わってくくださった皆様に、心より感謝申し上げます。貴重な知識を得る機会をいただき、柔道の本場で練習し、平和な国で砲撃の恐怖なく安全に、自分の好きなことに打ち込めたことに深く感謝しております。
 - ・ 柔道の中心地である日本を訪れることができ、とても嬉しく思いました。言葉では言い表せないほどフレンドリーな雰囲気の中で、毎日が練習やさまざまなイベントで充実していました。貴重な経験を積み、多くの新しいことを学ぶことができました。貴団体や連盟のさらなる発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。
 - ・ 彼は砲撃の心配なく安全に訓練をし、大好きな柔道に打ち込めたことをとても幸せに思っています。
 - ・ 日本を訪れるという私の夢が叶い、柔道の伝説的な選手にお会いすることができたのも夢のようでした。心から感謝申し上げます。ありがとうございます！
 - ・ 私たち全員がここに来ることを夢見ていました。一秒一秒が貴重で、非常に効率的な時間を過ごすことができました。どうもありがとうございました！
 - ・ これは世界中のほとんどすべての柔道家の夢であり、皆様のおかげで私たちの夢が叶いました。貴重な知識を得るとともに、柔道の本場でトレーニングできたことに心より感謝申し上げます。
 - ・ 特に戦争の影響でトレーニング、睡眠、栄養の維持が不可能な我が国にとって、このような困難な時期に、世界で最高かつ最強の場所で稽古と学びの機会を与えていただき、心より感謝申し上げます。
 - ・ 様々な組織や連盟がこのような素晴らしいプロジェクトを今後も継続し、さらなる発展を遂げることを願っております。

（体操）

- ・ 私の人生で最高のプロジェクト
- ・ 高崎を訪れることができ、とてもうれしいです。このような良い条件で訓練し、高崎の街とその人々のおかげで安心してください
- ・ すべてがよく整理されていました。日本の皆様、このような機会とご支援をいただき、誠にありがとうございます
- ・ このような大きなホールで働く機会を与えていただき、ありがとうございます。スペース、余裕、時間に余裕があるときにとても便利です。都合の良いスケジュールのおかげで時間があります。私は非常に快適な環境で暮らし、寝たり、食べたり、洗濯したり、これらすべてを宿泊していたホテルで行いました。日本での大会に参加することができてとても嬉しいです。彼は聡明だった。特に日本人からたくさんの応援をもらえて嬉しいです。これには特に感謝いたします。新しい経験と知識が得られるので、ぜひまたこのトレーニングキャンプに参加したいです！
- ・ 私はすべてが本当に好きでした。おもてなしに感謝します！

以上